

■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	児童一人一人の理解度に応じた学習活動を工夫し、目的意識をもって主体的に学ぶための教育活動を推進する。	中間評価	校内研究を柱として実態に合わせた学習活動を工夫している。「わかった。できた。」を実感することで学習への意欲の高まりが見られる。	最終評価	
環境作り	重 点	授業のユニバーサルデザイン化を進め、誰にでもわかりやすく、安心して参加し、ともに学ぶことのできる学習環境を整える。		校内で統一した学習のきまりや学習の流れを掲示することで、どの子も安心感をもち、主体的に学習を取り組めるようになってきている。		

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）	
1	国語	<p>学 平仮名の読み書きについては、おおむね習得をしているが、促音、長音、拗音などになると正しく書くことが難しい。</p> <p>学 文字や文に興味をもっていて、読書や読み聞かせの習慣が身に付いてきている。声に出して読むことにも意欲的ですぐで音読練習に取り組んでいる児童が多い。</p> <p>学 相手の話を聞く際には、姿勢などの確認が必要な児童がいる。話を聞いていても、内容を十分理解できなかつたり、内容の確認が必要になったりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・形や書き順に気を付けて丁寧に文字を書く習慣を身に付けていく。また、書いた字や文を確認して正しく書くことができるようになる。 ・手を止めて、相手の方を見て話を聞くことができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名、片仮名の書き取り練習を継続的に取り組む。また、言葉集めや言葉探しなどの活動を取り入れ、いろいろな言葉遣いにふれるができるようする。 ・教師による読み聞かせを行う。国語の学習材に合わせて関連する図書を紹介し、興味の幅を広げる。 ・「話し方」「聞き方」のポイントを提示する。特に、聞く活動の際には、相手を意識して最後まで集中して話を聞くことができるよう声を掛けしていく。 		
	算数	<p>学 数字の読み書きや数唱は身に付いている。10の構成について、理解できている児童が多いが、指を使って確認が必要な児童もいる。</p> <p>学 10までのたし算・ひき算については、理解できている児童が多い。文章の問題になると、苦手意識が見られる。</p> <p>学 学習内容が定着するまでに時間を要する児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10の構成について理解できるようする。 ・学習内容を定着させることができない児童が数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、5分間程度のミニ計算タイムを行い、簡単な数の構成や計算などを繰り返し確認できるようする。 ・数の構成が十分理解できていない場面では、具体物を用いて考えるようにさせる。 ・授業の中で5分間のミニ計算タイムを設定する。数の構成や簡単な計算練習などに取り組み、定着できるようにする。 		
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
2	国語	<p>学 話を最後まで聞くことが難しい場面もある。</p> <p>新出漢字の練習に意欲的に取り組む児童が多い。</p> <p>学 いろいろな単語を使って、文章を書けるようにしていく必要がある。語と語のつながりに注意して文章を書くことに苦手な意識をもつ児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話を最後まで集中して聞けるよう指導していく必要がある。話の大事なところをとらえて話せるようにする。 ・知っている片仮名や漢字を活用して文章を書くことが苦手な児童が多い。片仮名や漢字を適切に使って文章が作れるよう指導する必要がある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く活動では注意を喚起してから話す。また、話す活動は伝えたいことを伝えられるよう、教師が話型の模範を示す。 ・「書くこと」の単元で語と語のつながりに注意して文章が書けるよう指導する。学習活動の中に書く活動を意図的・計画的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わるように話す事柄を考えたり、話の内容を落とさないように集中して聞き、感想を持ったりすることができるようになってきた。 ・朝学習の時間に漢字の小テストをすることでテストの平均点が上がるとともに、漢字の学習に対する意欲も向上してきた。 ・文章を書くとき、主語と述語との関係に気を付けて書くように指導する。 	
	算数	<p>学 具体物を動かす場面を多く取り入れることで、たし算・ひき算の計算の仕方を理解してきている。</p> <p>学 文章題を解くことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりのある加法の計算の仕方について定着させる必要がある。 ・文章題の把握を苦手にしている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中でブロックなどの半具体物を用いた操作活動を取り入れる。練習問題で定着を図る。 ・文章題を解く上で、キーワードとなる言葉に注目させて問われたことを理解した上で、解くことを徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2位数の加減法の筆算の仕方について理解し、確実に計算できるようになってきた。 ・数量の関係に着目して問題が解けるようになってきた。 ・長さ・かさ、時こくと時間などについては、学級活動の場面でも取り上げ、日常生活と結び付けて考えていくようする。 	
3	国語	調 漢字の読み取りはよいが、書き取りと筆順については、5ポイント目標値を下回っている。場面の様子、登場人物の気持ちの読み取り等も同様に下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・書き取りが苦手である児童が多い。 ・要点をつかんで話を聞きとることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の繰り返し練習を大切にする。また、辞書を手元に用意し、辞書を活用して成り立ちや書き順を身に付けさせる。5W1Hを意識して聞き取ったり読み取ったりできるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない言葉があった時や筆順について、日常的に辞書で調べる習慣が付いてきている。しかし、個人差があるため家庭とも連携して語彙を増やしていく。 ・要点をつかんで話を聞ける児童が増えてきた。 	
	算数	調 学力定着度調査では、平均とほぼ同程度で、おおむね良好である。中では、たし算やかけ算や長さ・かさの正答率が低い。	<ul style="list-style-type: none"> ・たし算やかけ算では、繰り上がり正しく処理できない児童がいる。 ・長さやかさでは、単位換算を苦手とする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導や家庭学習を利用し、学習を習慣化させ、定着を図る。 ・単位換算では、単元ごとに既習事項を振り返り、定着を図るとともに、日常化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・70%以上の児童は、技能も正しく身に付いている。 ・ただ、まだ定着が不十分な児童には、個別指導、振り返りなどで、個別に対応しているところである。 	

4	<p>国語</p> <p>調 学力定着度調査の領域別正答率において、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の3領域で区の目標値を大きく上回っている。しかし、「書くこと」の正答率が45%と5ポイント目標値を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 語彙が少なく、文で表現するのが苦手な児童の割合が多い。また、順序立てて書いたり、物事に対して自分の考えを書いたりすることが特に課題である。 平均は上回っているが、話すこと聞くことについて最後まで相手意識をもって、話す・聞くことに取り組むことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を引く活動を多く取り入れて、語彙数を増やす。また、自分の意見を発表したり、文で表現したりする活動を多く取り入れる。文章は、定型文や手本となる文を提示して、その表現を使いながら書かせることで、苦手意識をなくしていく。 メモを取りながら話を聞きまとめる活動や、ポイントをおさえて聞く活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 意味や漢字が分からなくなったりしたとき、辞書を引く習慣が身に付いてきた。文章力について、読む単元において登場人物の気持ちや筆者の考えなどを読み取って、短い文章で書くことを繰り返し行った。朝学習の時間を活用して、定期的に小さな用紙を使いミニ作文に取り組んでいる。「大好きな食べ物」「嫌いな食べ物」など、テーマに沿った自分の考えを書き、隣の友達に読んでもらって「なるほど」と納得させることをめあてにしている。文で表現することに対して、苦手意識を低減でき、表現力も向上してきた。しかし、表現がつたなかつたり、どう書いてよいか分からなかつたりなどすることがまだある。自分の考えをどう書けばよいか、よい表現を紹介したり、ヒントを与えたりしながら、書き方を覚えさせていく。 ポイントを押さえて聞ける児童が増えた。 	
<p>算数</p> <p>調 学力定着度調査では、全体の達成率が80%と区を上回っている。しかし、たし算ひき算では、スコアが47.9と目標値を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 四則演算については、数が大きくなったり、問題数が増えたりすると、処理にミスが増える児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ドリル学習などで、根気強く四則演算の練習に取り組ませ、精度を高めていく。また、見直しを習慣化させ、集中して学習に取り組めるよう環境を整えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲があり、根気強く学習に取り組むことができている。そのため、正しい知識が身に付いている。 問題数が増えたり、大きい数の計算になるとミスをしてしまったりすることもあるので、問題文の読み取りをしっかりと行わせたり、たしかめ算を行わせたりしていく。 		
<p>国語</p> <p>調 学力定着度調査では、目標値は上回っているものの、区平均よりも低く、特に「書く能力」の正答率が低い。</p>	<p>調 学力定着度調査では、全体の達成率が50%と学年が設定した目標を下回っている。特に、わり算、計算の決まりの標準スコアが全国平均より大きく下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業においても、書くことに苦手意識が強く、自分の思いや考えを文章に表すことが難しい児童が多い。 漢字の習得において、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の時間に限らず、各教科において「書く」活動を多く取り入れる。 習熟に応じた個別指導を行い、理解の定着を図る。 朝学習の時間など、漢字の習得のために時間を十分に確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことに対して、苦手意識は低くなりつつあるが、要点が伝わるような分かりやすい文章を書くことには課題がある。 漢字の学習時間をしっかりと確保したり、国語辞典を活用させたりすることにより、小テスト等の点数は上がってきた。定着が図られるよう、引き続き指導を行う。 	
<p>国語</p> <p>調 学力定着度調査では、達成率が66.7%で、学年が設定した目標値を下回っている。特に、領域では伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項、観点別では言語についての知識・理解・技能の習得、とりわけ4年生までの漢字の習得が必要である</p>	<p>調 学力定着度調査では、全国平均とほぼ同程度でおおむね良好である。問題の内容では「体積」が目標値に11ポイント届いていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを文章で表現することが苦手な児童が多い。苦手な児童の多くは、語彙が少なく簡単な言葉に言い換えることができずに悩んでいることが多い。 これまで学習した漢字や言葉を積極的に使わせ、定着させることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文の課題を定期的に取り入れ、週に1度は取り組む時間を設ける。その際に、文章中に入れる言葉やテーマを指定することで、題意に合った言葉を選ぶ経験を積ませる。 学習したことを掲示板に残し、いつでも授業中に参照できるようにする。学習の初めに、掲示板の内容を振り返らせ、今までの学習とのつながりを意識した取り組みにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことへの抵抗感は少しづつ減ってきてている。しかし、領域別の平均正答率をみると、書くことの正答率が全体的に低いので、D層を中心に短文を作る活動を増やすなど、引き続き底上げを図っていく。 掲示してある内容を見て、既習を確認して取り組む児童が増えている。定着するまでには時間がかかるため、繰り返し要点を確認していく。 文章を書く活動では、習った漢字などを積極的に使おうとする児童が増えている。 	
<p>算数</p> <p>調 学力定着度調査では、全国平均とほぼ同程度でおおむね良好である。問題の内容では「体積」が目標値に11ポイント届いていない。</p>	<p>調 器楽では、個別の支援を必要とする児童が各学年数名いる。特に、リコーダーや鍵盤ハーモニカの活動で、苦手とする児童が数名いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 達成度が2つの山になっている。D層の底上げが必要。 体積など頭の中で、形を思い浮かべるのが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> なるべく模型など具体物を提示し、解法の見通しを立てる時間を十分にとる。 まなびにつなげて連携して学習に取り組んだり、個別指導で指導を繰り返したりして、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 上位層の児童は、見通しをもって学習に取り組み、自分で解決ができるようになっている。下位層の児童については、支援しながら取り組ませているところである。 D層の児童については、個別学習や朝自習の時間を利用し、個別に対応しているところである。 体積など図形の学習では、算数的な活動を通して、形や活動をイメージできるよう取り組んでいるところである。 	
<p>音楽</p> <p>学 歌唱では、声が弱々しい子もいるが、おおむねとても意欲的で、響きのある声で歌えている。</p> <p>学 器楽では、個別の支援を必要とする児童が各学年数名いる。特に、リコーダーや鍵盤ハーモニカの活動で、苦手とする児童が数名いる。</p>	<p>器楽では、運指を押さえられず、音楽の活動に対して抵抗感を示す子もいる。また、歌唱の際に表情のない歌い方をしている子がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 器楽では、運指を押さえられず、音楽の活動に対して抵抗感を示す子もいる。また、歌唱の際に表情のない歌い方をしている子がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別に指導し、個人で目標を設定し達成感を味わわせる。分かりやすくスマールステップで個別指導をする。歌唱の際、発声練習や楽しんで歌える活動を増やし、意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽会に向けて、意欲的に歌唱や器楽の活動に取り組んでいる。器楽では、個別指導の効果があり、演奏できるようになってきている。歌唱では、表情豊かに歌えるようになってきている。 	

図工	<p>学全体的に、意欲的に制作できる児童が多い。図工が苦手な児童や支持が通りにくい児童には、個別に支援し、寄り添って指導を行っている。児童が理解しやすいように、実物投影機や写真などを提示し、授業を進めている。また、本を活用し、作品に生かす児童も多く、意欲的・自主的に取り組んでいる。毎時間、声掛けや掲示をし、何よりも安全第一を心掛けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> どの学年も、児童の学習状況に差ができる。 数名、作品のアイディアが浮かぶまでに、かなり時間がかかる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発達段階に応じた掲示物や資料を提示したりして、安心して授業に取り組める環境を作る。また、休み時間や昼休みに時間を設け、個別に指導を行う。 アイディアが浮かばない児童には、声掛けや美術系の本を活用することを勧め、丁寧に寄り添い指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 配慮をする児童には、担任と連携し、個別指導を行う。 アイディアが浮かばない児童のために、タブレットを持参し、いろいろな作品を自由に閲覧できるように、環境を整える。 図書館司書と連携し、授業に活用する本を取り寄せ、授業に活かす。また、図工の授業中に、図書室を活用できるようしている。 	
特支	<p>学自分の考えを相手に伝わるように表現することが苦手である。 学流暢に読んだりすらすら書いたりすることが苦手である。 学集中して活動に取り組むことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 語彙を増やすことが課題である。 相手意識をもつことが課題である。 持続して取り組む力を身に付けることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉のプログラムを活用し、個に応じた学び方で語彙を増やすようにする。(言葉のプログラムの活用) ソーシャルスキルトレーニング[※]を行う。 環境調整を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究でも取り上げた内容を「まなびの教室」でも取り上げ、連携して言葉の学習を進めた。 友達と遊びの約束をしていたが行き違いが発生したというような実際の場面での出来事を踏まえ、ソーシャルスキルトレーニングの指導内容を考え実行し、相手意識をもった活動ができるようになった。 	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況 学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況 ※分量は2ページ以上となってもよい。